



高商 OB が母校を訪問されました

令和6年6月3日
県立高田商業高校同窓会

5月21日(火)午後、米国シカゴ在住の荻野敏雄さんが、日本一時帰国の途中に上越市を訪れ母校を訪問されました。

荻野さんは昭和34年3月に高田商業高校を卒業後、明治大学進学を経て東京の企業に就職。その後渡米し、現在米国イリノイ州シカゴ市に在住。渡米後起業しながら厳しい米国実業界で活躍し、シカゴの日本人会初代会長を務められました。

上越妙高駅で荻野さんを迎え母校(中田原校舎)にご案内し、新校舎の広い敷地と校舎内を見学していただきました。

敷地 43,132 m²(約1万3千坪)で、荻野さんが学ばれた南城町3の旧校舎校地5千坪から約2.6倍の県下でも有数の広さの校地面積に、隔世の印象から感無量のご様子でした。

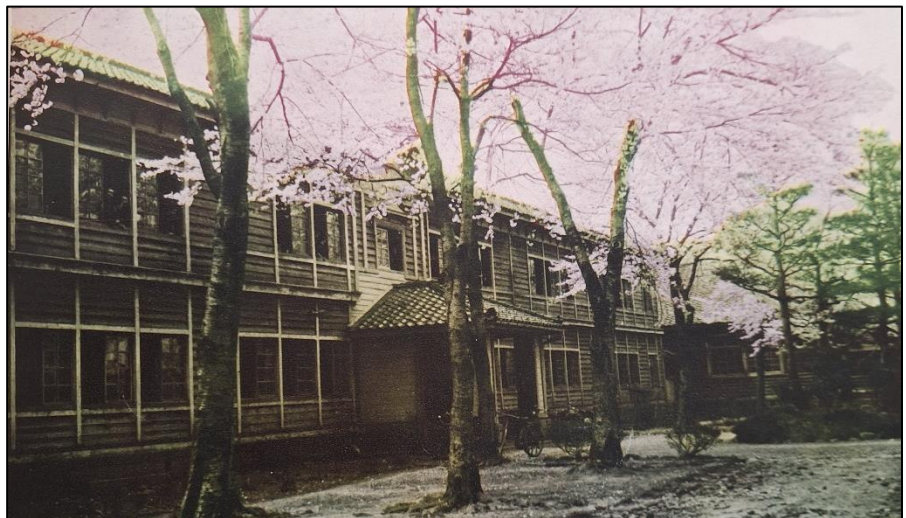
次いで現役時代通われた南城町3の校舎(現南城高校)にご案内。校舎自体は鉄筋建物に一新されて当時の面影はありませんが、校地及び桜並木をご覧になり往時を偲んでおられました。

昭和31年4月に高田商高に入学。赤倉の家からバスで信越本線田口駅(現妙高高原駅)に出て、そこから高田駅までのかなりの遠距離通学。

当時の列車は蒸気機関車で、窓からの煙を吸いながら、トンネルに入る度に乗客一斉に窓を閉めるといった乗車風景でした。

当時の列車通学生は汽車通生と呼ばれ、列車は昭和40年代初頭に電化されています。

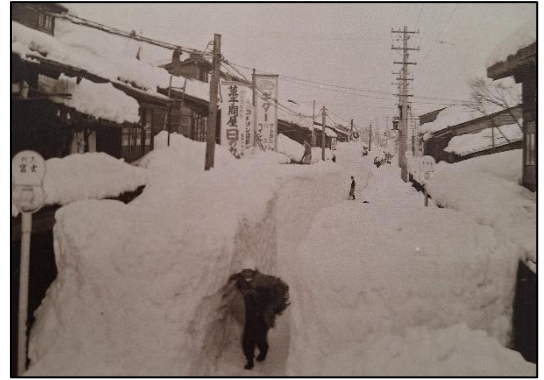
写真は昭和30年代初頭の南城校舎(春)。→





荻野さんは冬季間、高田市内に下宿生活を余儀なくされたとのこと。当時、今より交通事情が悪く、特に冬季の除雪体制は大型の除雪機などなく、専ら人力での除雪。道路に積った雪は春を待つまでそのままでした。

市街地の道路は屋根から降ろした雪もあり、写真(右)のような光景が普通でした。



幼少期より赤倉でスキーに親しんでいたこともあり、高商時代はスキー部に所属。アルペン競技に打ち込み各種大会に出場したとのこと。



80歳を過ぎた今でも米国でシニア大会に出場し、今シーズンは3位に入賞できたとのこと。本当にスキーを楽しんでおられる様子でした。 当時のスキー部→

また、当時日本の自動車産業の黎明期で、学校では先進的に自動車部があり、誠にオンボロな自動車があったということで、当時の卒業アルバムを探したところ、右の写真を見つけました。自動車部→



新旧校舎訪問後、ご案内した同窓会担当者宅にて同窓会資料をもとに昭和30年代初期の学生時代の更なる種々の貴重なお話を伺いました。

(荻野さんの経歴詳細は、当ホームページ7頁「高商アーカイブ」「高商人物伝」にて紹介しています。)

